

Ca・骨代謝改善 1 α -OH-D₃製剤

アルシオドール[®]カプセル 0.5 μ g

アルシオドール[®]カプセル 1 μ g

ALSIODOL[®]CAP. 0.5 μ g
ALSIODOL[®]CAP. 1 μ g

アルファカルシドール製剤

標準品：アルファロールカプセル0.5 μ g/1 μ g

PTPシート

0.5 μ g <実寸>



1 μ g <実寸>



カプセル

0.5 μ g

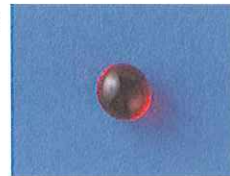


<実寸外形>

側面 ○

外 観：橙赤色透明の軟カプセル剤
内容物：微黄色～淡黄色澄明の油状液

1 μ g



<実寸外形>

側面 ○

外 観：橙赤色透明の軟カプセル剤
内容物：微黄色～淡黄色澄明の油状液

規格 包装規格：PTP100カプセル（10カプセル×10） [0.5 μ g/1 μ g]

	識別コード	直径	重量	PTPシート	個装箱
0.5 μ g	ASD-0.5	5.8mm	約100mg	32×88mm	50×125×45mm
1 μ g	ASD-1	5.8mm	約100mg	32×88mm	50×125×45mm

和名 アルシオドールカプセル 0.5 μ g
アルシオドールカプセル 1 μ g
洋名 Alsiodol Capsules 0.5 μ g
Alsiodol Capsules 1 μ g
一般名 アルファカルシドール (Alfacalcidol)

貯法 遮光、室温、気密容器保存
使用期限 外装に表示 (3年)
規制区分 劇薬

承認番号 0.5 μ g : 20200AMZ00369000
1 μ g : 20200AMZ00168000
薬価収載 1990年7月
販売開始 1990年7月

【組成・性状】

販売名	アルシオドールカプセル 0.5 μ g	アルシオドールカプセル 1 μ g
有効成分 (1カプセル中)	アルファカルシドール …0.5 μ g	アルファカルシドール …1 μ g
添加物	エタノール、中鎖脂肪酸トリグリセリド、ゼラチン、コハク化ゼラチン、グリセリン、D-ソルビトール、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油 60、黄色 5 号	
性状	外 観：橙赤色透明の軟カプセル剤 内容物：微黄色～淡黄色透明の油性液	
外形	側面	断面
規格	直径	5.8mm
	重さ	約 100mg
識別コード	ASD-0.5	ASD-1

【効能・効果】

- 骨粗鬆症
- 下記疾患におけるビタミン D 代謝異常に伴う諸症状 (低カルシウム血症、テタニー、骨痛、骨病変等) の改善
慢性腎不全、副甲状腺機能低下症、ビタミン D 抵抗性クル病・骨軟化症

【用法・用量】

本剤は、患者の血清カルシウム濃度の十分な管理のもとに、投与量を調整する。

- 骨粗鬆症、慢性腎不全の場合
通常、成人 1 日 1 回アルファカルシドールとして 0.5～1.0 μ g を経口投与する。
ただし、年齢、症状により適宜増減する。
- 副甲状腺機能低下症、その他のビタミン D 代謝異常に伴う疾患の場合
通常、成人 1 日 1 回アルファカルシドールとして 1.0～4.0 μ g を経口投与する。
ただし、疾患、年齢、症状、病型により適宜増減する。

(小児用量)

通常、小児に対しては骨粗鬆症の場合には 1 日 1 回アルファカルシドールとして 0.01～0.03 μ g/kg を、その他の疾患の場合には 1 日 1 回アルファカルシドールとして 0.05～0.1 μ g/kg を経口投与する。
ただし、疾患、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1) 過量投与を防ぐため、本剤投与中、血清カルシウム値の定期的測定を行い、血清カルシウム値が正常値を超えないよう投与量を調整すること。
- (2) 高カルシウム血症を起こした場合には、直ちに休薬する。休薬により血清カルシウム値が正常域に達したら、減量して投薬を再開する。

2. 相互作用

併用注意 (併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
マグネシウムを含有する製剤 酸化マグネシウム、炭酸マグネシウム等	高マグネシウム血症が起きたとの報告がある。	不明
ジギタリス製剤 ジゴキシン等	不整脈があらわれるおそれがある。	本剤により高カルシウム血症が発症した場合、ジギタリス製剤の作用が増強される。
カルシウム製剤 乳酸カルシウム水和物、炭酸カルシウム等	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	本剤は腸管でのカルシウムの吸収を促進させる。
ビタミン D 及びその誘導体 カルシトリオール等	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	相加作用
PTH 製剤 テリパラチド	高カルシウム血症があらわれるおそれがある。	相加作用

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

- 1) 急性腎不全 (頻度不明) : 血清カルシウム上昇を伴った急性腎不全があらわれることがあるので、血清カルシウム値及び腎機能を定期的に観察し、異常が認められた場合には、投与を中止するなどの適切な処置を行うこと。
- 2) 肝機能障害、黄疸 (頻度不明) : AST(GOT)、ALT(GPT)、ALP の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

以下のような副作用が認められた場合には、減量・休薬など適切な処置を行うこと。

	0.1～5%未満	0.1%未満
消化器	食欲不振、悪心・嘔気、下痢、便秘、胃痛	嘔吐、腹部膨満感、胃部不快感、消化不良、口内異和感、口渇等
神経系		頭痛・頭重、不眠・いらいら感、脱力・けん怠感、めまい、しびれ感、眠気、記憶力・記憶力の減退、耳鳴り、老人性難聴、背部痛、肩こり、下肢のつっぱり感、胸痛等
循環器		軽度の血圧上昇、動悸
肝臓	AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇	LDH、 γ -GTPの上昇
腎臓	BUN、クレアチニンの上昇 (腎機能の低下)	腎結石
皮膚	そう痒感	発疹、熱感
眼	結膜充血	
骨		関節周囲の石灰化 (化骨形成)
その他		嚔声、浮腫

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので用量に注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔ヒト妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。動物実験 (ラット) で大量投与の場合、胎児化骨遅延等がみられている。〕
- (2) 授乳中は投与を避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。〔授乳婦への投与に関する安全性は確立していない。動物実験 (ラット) で授乳による新生児への移行率は、母動物投与量の 1/20 に相当する。〕

6. 小児等への投与

小児に投与する場合には、血清カルシウム値等の観察を十分に行いながら少量から投与を開始し、漸増投与するなど、過量投与にならぬよう慎重に投与すること。〔幼若ラット経口投与における急性毒性は成熟ラットに比べ強くあらわれている。〕

7. 適用上の注意

薬剤交付時

PTP 包装の薬剤は PTP シートから取り出して服用するよう指導すること。(PTP シートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

8. その他の注意

高リン血症のある患者に投与する場合はリン酸結合剤を併用し、血清リン値を下げること。

【取扱い上の注意】

安定性試験結果

最終包装製品を用いた長期保存試験 (温度 6.8～32.3 $^{\circ}$ C、相対湿度 39～93%、3 年間) の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、アルシオドールカプセル 0.5 μ g 及び 1 μ g は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが確認された。

詳細は添付文書をご参照ください。添付文書の改訂にご留意ください。